



第111回ワーキンググループ会議 (R5.5.25)

『夢や希望を語り合おう ～エンディングノートの広がりに向けて～』

●話題提供者

守山市健康福祉部 在宅医療・介護連携サポートセンター
保健師 浦西 理絵 さん

守山市のエンディングノート

- 第1部「これからの私」
過去の自分を振り返り、これからの人生について整理するノート
- 第2部「もしものときのために備えたい」
自分の望む医療や介護などに対する自分の思いを整理するノート
- 第3部「大切な人に伝えたい」
感謝の気持ちや伝えておきたいことを記しておくノート

Point

どこからでも
書ける！

気軽に
書ける！

書き直しが
できる！

今後は、病気や死などの特別なタイミングではなく
日常生活の中で書くものだとことを広めたい！

★今年度取組んでみたいこと…

エンディングノートグランプリ (仮)

一等賞を決めるのではなく、趣味や特技、生きがい、好きなことなど、その人にとっての“イキイキと生きる”ヒントを語り、書き記してもらいたい…

エンディングノートを書くきっかけ、生きがいを見つける機会、自分らしい生き方を家族や大切な人と共有する機会、本人の思いに沿った支援へとつなげる

出前講座を受けた方の感触は良く、今後は、「これから書いてみたいと思うか?」「書き方はわかったか?」「これからの自分を思い描けるようになったか?」「このような話題を家族と話せそうか?」というような質問をすることで、次に何をすれば良いのかわかっていただけるのではと思っています。

グランプリでは、イキイキと暮らしていること自体が素晴らしいと自覚していただき、さらに、その活動を知った人が刺激を受けてくだされば良いと思う。楽しいイベントをとおして、「それってここにつながっているんだよ」とわかっただけのようなことをしたい。



浦西 理絵さん

【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和5年6月29日(木) 18:30~20:00
- 場所：米原市市民交流エリア 会議室 (Web可)
- テーマ：『朝妻お茶の間サロン活動』
- 話題提供者：朝妻お茶の間サロン 吉田 正子さん

☆7月以降の予定☆

- <ワーキンググループ会議>
7/13 (彦根・排尿ケア特別企画)、7/27、9/28、10/26、
12/21 (近江八幡)、1/25、2/22、3/21
- <総会・研修会> 8/26 (土) コラボしが21

5月は、守山市のエンディングノートの取り組みを聞いて、どのように啓発を進めていけばより効果的に普及できるか、などについて意見を出し合いました。守山市の調査では、エンディングノートの認知度は上がっている一方、「人生の最期について家族と話し合ったことがある」と答えた人は少ないという結果が出ています。エンディングノートの普及と共に、人生の最期を話題にすることは特別なことではないと誰もが思えるようになれば良いですね。

参加者の声

【エンディングノートの評価について】

- ・ご本人から評価を聞くことは難しいので、支援者から対象者の活用状況を聞いてみたり、支援者の研修などで意見を出してもらうという方法もある。
- ・ノートを活用してご本人の望む最期を迎えることができたかということ考えると、個別評価も必要ではないか。
- ・家族に協力してもらって、アプリや音声入力の活用や、聞き取りによる記入なども行ってはどうか。
- ・冊子の最後のページをアンケートにして郵送してもらったり、ノートにアンケートのQRコードを貼って答えられるようにしてはどうか。
- ・意見を出し合えるコミュニティをオンラインで作ってみる。
- ・まずは専門職に認知度を広げ、「元気なうちから話していくことが大事だ」ということを普及啓発することが重要。
- ・孫世代からのアプローチも大切と思う。教育現場で宿題として、祖父母への聞き取りという形でエンディングノートの内容を記載してもらったりなどはどうか。

【エンディングノートグランプリについて】

- ・「グランプリ」という名称が、人生の優劣だと思われにくいように配慮が必要。
- ・いろんな方に興味を持ってもらうためのイベントということであれば、「エンディングノート」という名称は忌避する人が多そうなのでやめた方が良いのでは。
- ・年齢制限を設けると集客が悪くなるので、小学生でも書けるような内容にしてはどうか。
- ・孫や子どもと楽しく参加できるように。
- ・内容ではなく、プラットフォームのグランプリにしてみよう。
- ・住民の方から、エンディングノートの内容とその方のバックグラウンドを募って展示し、来場者に刺激を感じていただく。さらに、その場で冊子を無償配布して普及に努めるという形にするのも良いのでは。

彦根市高齢福祉推進課の中村愛さんから感想をいただきました。「地域実践のブラッシュアップや好事例の横展開を図る」という目的で新たに始めた地域交流事業ですが、早速効果があったようで嬉しいです！

エンディングノートがテーマということで、当市の協働発行事業者をお誘いして参加しました。参加後、冊子の作成や普及啓発について打ち合わせをする中で、今回の内容はとても参考になったと話されていました。

また、同じ話題を共有したことで共通認識を持つことができ、冊子の作成や啓発、評価について具体的なアイデアを出し合いながら、エンディングノートの活用について協議することができました。

医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

